令和４年度　学校評価表

【学校教育目標】　互いの人権を尊重し、自分の意思を伝え合いながら、主体的に行動することができる生徒の育成

		領域	評価計画					自己評価						学校関係者評価	改善計画
			中期経営目標	短期経営目標	達成のための手立て（具体的な実施内容）	評価指標	目標値％	アンケート 教職員	アンケート 生徒	アンケート 保護者等	評価	結果と評価の説明	コメント	改善策
1	【豊かな対話】考えを伝え、受け止め合う。	総務部・教務部	今日の教育課題の解決に向けた学校経営	働き方改革の推進 業務の効率化	・学校行事の精選 ・懇談用成績資料の充実 ・エクセルを活用した情報管理システムの構築	業務の効率化が実感できた割合	75%	90%			A	・肯定的なアンケートの回答の数値90%が目標値75%を上回った。 ・業務の効率化を各分野（通知表関連４項目・成績処理関連3項目・その他4項目）でかなり進めることができた。	・長時間勤務の実態はどうなっているだろうか。一定の効果があるのなら継続して取り組んでもらいたい。 ・特別支援学校では、定時内の会議や対応を心掛けている。中学校でも職員会や各部会などの設定を定時内に開くことから始めたらよい。	・今年度、数多くの取組で業務の改善や効率化が進んだ。来年度も同様の取組を継続したい。 ・紙媒体での配付をやめて、メール配信に変えることが可能なものもあるのではないか。そのあたりを検証しながら改善していく。
2				ＩＣＴや広報誌等の活用 適時的、効果的な情報提供	・メールを活用した保護者への連絡、周知 ・HPの定期的な更新、学校便りの発行、行事案内や月別行事等の迅速な情報提供	適時的、効果的に情報提供がなされていると思う割合	80%	95%		③ 82%	A	・肯定的なアンケートの回答の数値が教職員95%、保護者82%で、目標値は達成できた。学校、学級等の便りを定期的に発行できた。２学期末から新しいメールシステムが導入されたが、うまく併用しながら利用している。	・不登校生徒に対して、タブレットを用いて繋がっていくことは有効なので継続してもらいたい。 ・便りについて、報告だけではなく事前の周知を行っていくと、より効果的であるので実践してもらいたい。	・来年度は、便りの配付を紙媒体とメールの併用でやってみることで、情報提供が進むのではと考える（保護者からの意見も参考に）。そのために、メールシステムの利用について研修する必要がある。また他項目の周知不足解決のため、HP等も含め活用を進める。
3		人権同和教育	互いの権利や立場の尊重	人権後援会、研修会の工夫 生徒の意識、態度の育成	・人権に関する最新の情報を取り入れた職員研修・講演会を充実させる。 ・生徒会主催の人権集会を実施し、人権課題に主体的にかかわろうとする態度を育む	人権に関して意識が高まったと思う割合	75%	90%	② 98%	⑬ 64%	B	・肯定的なアンケートの回答が教職員90%、生徒98%、保護者64%であり、目標値を達成できていない部分もあった。保護者参加型の人権に関する講演会や取り組みなどが少ないことや、保護者との連携が少なかったためだと思われる。次年度に向けては、保護者との連携を積極的に行っていきたい。また、講演会等が12月以降に多かったことも影響している考えられる。	・保護者評価が低いのは、保護者参加型の取組が少なかったかもしれないが、周知をしていないわけではないので、保護者の意識を変えていくことが大切になる。一番難しいことかもしれないが、来年度の課題として取り組んでもらいたい。	・生徒会活動などを通して、人権感覚について意識できるようにしていく。また、生徒主体の活動を行う際はすべてを任せるのではなく生徒が活動をイメージできるようすることが大切になるので、教員が見通しをもって計画的に進めていく。 ・計画の段階から保護者に周知する。また、イベントの報告だけでなく、方針や計画も知らせていく。
4		生徒指導部	豊かな人間性とコミュニケーション力の育成	個に応じた支援の工夫と組織的な対応の継続	問題の早期発見・対応・活用のために ・定期的な情報交換 ・学校生活に関わるアンケートの実施 ・スクールカウンセラーの活用 ・関係機関の活用	困ったことが解消されたと思う割合	75%	75%	⑲ 92%	⑧ 71%	⑨ 77%	B	・生徒指導における経過など、全職員での情報共有が不十分であった。 部会での検討が曖昧であり、共通理解が不十分であった。 ・２学期末から、不登校生徒に関するランチミーティングを行った。	・ランチミーティングという取組は、情報共有して組織的に取り組むうえでとても有効な取組である。しかしながら、教職員の休憩時間を削ることにもなるので、配慮をしながら継続してもらいたい。	・日報を活用し、情報共有をスムーズに行う。生徒指導部会の時間など、開催方法を改善する。 ・ランチミーティングは情報共有だけでなく、対応策を考える時間にもなり、今後も継続して組織的な対応を進めていく。
5				基本的な生活習慣の育成 ・あいさつ、返事、服装 ・公共ルール、マナー	生徒会執行部と連携した指導	生徒会執行部と連携した指導を通して、基本的な生活習慣が身についたと思う割合	80%	70%	⑩ 97%	⑪ 93%	⑫ 66%	B	・生徒の実態は上向いている面もあるが、指導の取組では生徒会との連携が不十分であった。生徒指導部で検討し、生徒の主体性に働きかけながら指導を進めていく必要がある。	・毎朝通学路に立っているが、中学生の挨拶は小さいと感じる。地域の方からも同様の声を聞いている。一方で、地域の大人が挨拶を返さない実態もあり、中学生だけの課題ではないが、挨拶が返ってくるかどうかを気にせず挨拶ができるようになれば素晴らしい。そのあたりを生徒にも伝えながら指導にあたってほしい。 ・宇野有福地区の生徒は、とてもよい挨拶ができている。	・生徒会が主体となって取り組めるよう、生徒とともに合意形成を図ることを大切にした支援体制を構築する。このことについては、特別活動とも繋がっているので、研究部とも連携して研修、実践を進める。

6				対話による人間関係作り ・教育相談 ・生活ノート	・教育相談や生活ノートへの誠実な対応 ・日常的な教員からの声掛け	一人一人が大切にされていると感じる割合	80%	89%		⑲ 92%		⑧ 71%		A	・教育相談は学期に１回行われており、効果的に実施することができた。中には時間が足りず、放課後や休憩時間を利用している担任もいた。生活ノートへの対応については、各担任が丁寧に行えていた。	・学期１回の教育相談、ノートの対応は大変であろうが、この地道な取組が生徒に伝わっているので、継続してほしい。 ・生徒が本音を話さなければ効果が低い取組になるので、本音がいえる関係づくりを進めてもらいたい。 ・保護者評価が低いが、生徒がどう感じているかが大切であり、生徒評価で高い評価が出ていることは成果として認めて良い。	・時間がたりない担任もいたようなので、教務部と協議して時間を増やすかどうかを検討する必要がある。生活ノートや学級日誌など、生徒の声をうまく拾い上げて学級経営を行うことができれば良いと感じる（県教研特活に絡めて）。
7	【学力向上】自らの考えを表し、主体的に学ぶ。	保健安全	自らの手による感染予防対策や健康管理	新型コロナウイルス感染予防 熱中症対策	積極的な情報発信 ・保健だより ・掲示物 ・生徒会執行部	情報を受け自ら実践できた割合	85%	100%		⑭ 98%				A	・定期的に保健便りを発行することができ、生徒の健康・安全に対する意識を向上させることができた。学校司書と連携した掲示物の作成は、生徒だけでなく教職員も注目するもので、非常に効果的であった。	・教職員の取組だけではなく、生徒が主体的に取り組んでいるかが大切である。時には教員が手を出さずに見守り、生徒の実態がどうなのかを確認して指導にあたってもらいたい。	・便りや掲示物など、教職員からの指導、情報発信は効果的に行えたといえる。来年度に向けては、生徒会が主体的に取り組める働きかけをして、生徒と一緒に取り組める体制をつくっていきたい。
8		研究部	主体的に学ぶことができる生徒の育成	話し合い、表現活動の充実 ・協調学習の成果の活用 ・特別活動の工夫	・協調学習の活用 ・特別活動の工夫	・話し合い活動を通して自分の考えを深めることができたと感じる割合 ・話し合い活動で自分の意見を表現することができたと感じる割合	85%	68%		③ 98%	④ 93%			B	・各教科において、話し合い活動の場面を意識して授業に設けるようにしている。職員の中からは、内容等を改善したいという意見も多かった。	・生徒の評価が高いのは、話し合いをたくさん行っているからで、話し合いの質が高いかどうかではない。教職員が見ている部分を大切にし、今後改善を図ってもらいたい。	・管理職を含め、お互いの授業を積極的に参観し、多様な手法を学びあえるようにする。 ・行事（３学期中間テスト等）の見直し、課題による自習対応などにより、参観時間を確保したい。
9				自分の計画による家庭学習 学習状況の記録と振返り	・自主学習ノートの活用 ・テスト計画表の活用	・自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができたと感じる割合	70%	56%		⑤ 76%		⑦ 63%		C	・職員や保護者から見て、取組が十分だとする評価は得られていない。生徒が自ら取り組む姿勢を育てるために、生徒が学力の向上を感じられるより効果的な取組を考えていく必要性がある。	・授業だけで満足していて家庭学習が少ないのではないか。予習復習も不足しているように感じる。授業内での取組（小テストの実施など）だけではなく、保護者も巻き込んでの取組も考えてみてほしい。 ・他のＢ評価より一段階低い状態とみてＣ評価とし、今後の改善を期待する。	・家庭や現状の把握（提出状況、内容等）をすすめ、課題の提出に困難さを抱えている生徒に対しては、学年部等で協力しながら指導をする。 ・どうすれば提出状況や内容が改善できるか生徒同士で考えさせる、良い例を各学年でストックしておくなど、生徒の力による改善も図りたい。
10		キャリア教育	キャリア教育の推進	キャリアパスポートの活用 計画的、系統的な進路学習	・キャリアパスポートの見直し ・職場体験活動の実施 （事前・事後学習の充実）	・次の学習や生活への意欲につながったと感じる割合 ・自分の進路に対する考え方を広げることができたと感じる割合	75%	89%		⑧ 89%				A	・進路学習により、生徒の進路に対する意識は高めることができた。キャリアパスポートについては活用方法について、効果的に活用することができなかった。	・市内県内にとどまらず、日本や世界の職業などを知る、見ることも大切にしてほしい。 ・生徒のやりたい、興味のある仕事を体験できるように、なかなか難しい面もあると思うが、努力を続けてほしい。	・キャリアパスポートについては、まず教員に活用方法をきちんと示す。そのために年度始めには、研究部、総合的な学習担当を中心に、内容や活用方法について確認する。
11		ふるさと	体験的、主体的な学習	職場体験学習の連携、推進	・まちづくりセンターとの連携、協力 ・市内の「ひと・こと・もの」の有効活用	ふるさと「浜田」について、新たな気づきがあったという生徒の割合	70%	94%		⑧ 89%		④ 77%	⑤ 69%	A	・教職員、生徒とも肯定的な評価で目標値を上回った。各学年の学習内容に合わせてまちづくりセンターや市内事業所と連携しながら活動ができたと考える。	・保護者への事前の情報発信をしっかりしていくと、保護者評価も高まっていくのではないか。来年度に向けて取り組んでほしい。	・保護者からの評価が目標値を下回った。原因としては学校からの情報発信の不足が考えられ、今後は家庭や地域への情報発信の方法も検討していきたい。
12		ＧＩＧＡ	タブレットやICT機器の活用	授業おける各機器の活用 タブレットの家庭での活用 授業研究での各機器の活用	・教職員への研修の実施 ・家庭で使用するための持ち帰り規定の作成	・授業内でタブレットを使用した割合。 ・家庭へ持ち帰って使用した割合。	75%	64%		⑥ 87%				B	・教職員アンケートより、活用が不十分であることが分かった。その背景には、使い方、環境、ソフトの内容が考えられる。また、家庭での学習活用に関しては、学校での使用頻度とともに高まるのではないかと考える。	・各家庭におけるネット環境の差が、生徒の学びの差につながらないように配慮をしてほしい。 ・家庭に持ち帰った場合、生徒がどんな使い方をしているのかは学校が把握することが難しい。生徒自身が注意して使えるように、モラルや意識を高める教育をしていくとよい。	・インターネットの接続不良は市教委への現状報告の継続をする。 ・学習支援ソフトの導入をできたので、本ソフトを教職員に周知し、有効に活用できるよう支援していく。 ・使い方については、GIGA担当の実践だけでなく、他校の取組や実践例を紹介しながら改善を図る。